

公益財団法人朝日新聞文化財団

芸術活動助成申請要項

(2020年受付・2021年度実施事業)

I 助成の目的

音楽会、美術展覧会等への助成を通じて、文化、芸術等の発展、向上に寄与することを目的とします。

II 助成対象事業の種類

音楽分野、美術分野の2分野

※音楽分野：クラシック音楽、オペラ・バレエ、能・文楽・歌舞伎、邦楽（伝統音楽）等の公演

※美術分野：絵画、彫刻、写真、映像など美術作品の展覧会

III 助成対象となる事業

芸術的水準が高いと認められ、原則としてプロ、あるいはプロを目指す芸術家が出演者、出品者として行う事業で、次のいずれかの要件を満たす必要があります。

- a 芸術上の啓蒙普及的意義のあるもの
- b 芸術家に発表の機会を広げるもの
- c 地域の芸術文化向上に資するもの

IV 申請者資格

- 1 申請できるのは、申請する事業を確実に実行できると認められる以下の方々です。
 - 1) 芸術活動・事業を主催する公益法人や非営利団体（それに準じる任意団体）、個人
 - 2) 公益法人や非営利団体が主催する芸術祭等に出演・出品するグループ、個人※「任意団体」とは規約（定款等）、構成員、責任分担、資金負担などの取り決めがあり、経理を独立して行う団体・組織としての実態があるものです。
※グループ活動、グループ展で、そのグループが上記に規定する「任意団体」に該当しない場合には、そのグループの代表者が「個人」として申請してください。
- 2 以下の申請は受け付けられません
 - ・企業や営利団体（朝日新聞社をはじめ、新聞社、テレビ局等も企業です）
 - ・企業や営利団体が主催する芸術祭等に出演・出品する個人、グループによる申請
 - ・企業や営利団体が、主催者である実行委員会組織の一員となっている場合
 - ・企業の主催・共催事業（但し、後援、協賛、協力の場合は可）※公益法人・自治体が運営する施設（会館、ホール、美術館、博物館等）の指定管理者である企業が、その施設の管理運営のために行う芸術活動・事業について申請する場合には、申請者となることは可能です。
- 3 日本人（日本在住者）が海外で行う事業や外国人が主催・実施する事業について申請できるのは以下3つの条件を満たす申請者による、a～cの事業のみです
 - ・日本国内に現住所（生活拠点）があり

- ・日本国内に常時連絡が取れる連絡担当者があり
- ・助成金振込先として日本国内の金融機関に申請者自身の口座を有すること
 - a 日本在住の日本人が海外で開催する事業
 - b 海外在住の日本人が日本で開催する事業
 - c 日本在住の外国人が日本で開催する事業

V 助成金について

- 1 支給する助成金は、1 件あたり 10 万円から 100 万円です
- 2 助成総額は、音楽・美術両部門で総額 3500 万円を予定しています
- 3 助成金は、申請者（代表者）名義の、日本国内にある金融機関の口座に振込みます
- 4 支給額は最大でも 100 万円、ほとんどの助成額は 10 万円から数十万円です。申請金額を全額支給できケースは稀ですので、自己資金、その他の助成金申請、協賛金の獲得などの資金計画のもとで、確実に事業が行われるようにしてください。助成決定後の辞退は、他の申請者に対する助成機会を奪うこととなりますので、くれぐれもご注意ください。
(参考) 2020 年度助成決定額 3700 万円 内、音楽：応募総数 210、助成件数 91、美術：応募総数 161 件、助成件数 70 件、合計：応募総数 371 件、助成件数 161 件

VI 申請書の作成、受付から選考、通知まで

- 1 助成申請受付期間
2020 年 7 月 1 日～2020 年 11 月 26 日（WEB 上申請手続きが完了していること）
- 2 助成の対象となる事業の実施期間
2021 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月末日の期間に実施する事業
- 3 申請方法
 - 1) 当財団の WEB 申請システム (<https://system.asahizaidan.or.jp/>) により、手続きを行ってください。**（郵送等による申請書類は受理しませんのでご注意ください）**
 - ①初めて申請される方は上記の WEB 申請システムにアクセスし、基本情報登録を行ってください。
 - ②基本情報登録を行う際、「氏名」欄は、個人申請の場合は申請者本人、法人・団体の場合にはその代表者（理事長、学長、館長など）の、氏名、メールアドレス、生年月日等の必要な情報を入力してください。
※法人・団体申請の場合は、必ずその組織の代表者による承認・決裁を受けてから申請してください。
 - ③基本情報登録の「申請者名」欄は、法人・団体の場合はその法人・団体の正式名称を、個人申請の場合には申請者の氏名を入力してください。
 - ④団体や法人の場合は必ず連絡担当者を置き、氏名、連絡担当者役職名（或いは申請者との関係）、住所、電話番号、FAX、メールアドレスを「連絡担当者」欄に登録してください。
 - ⑤個人申請の場合でも、連絡担当者を置くことは可能です。
 - ⑥基本情報登録内容が変更になった場合は、速やかに修正して下さい。
 - ⑦申請用の ID（メールアドレス）やパスワードは必ず、記録・保管し、忘れないようにしてください。
 - 2) 基本情報登録を行いますと申請者・連絡担当者のメールアドレスに確認メールが届きます。メ

ールのリンクをクリックして登録情報を確認いただき、「各種助成申請受付」タブをクリックして申請作業が開始できます。

※申請書作成時のご注意

- ・申請書を作成する際は、Microsoft 社の正規版 word ソフトを使用して下さい。他社互換ソフトで作成されると書式等が壊れたり崩れたりし、申請書を受理できません。
 - ・「芸術活動助成申請書（音楽）」「芸術活動助成申請書（美術）」「推薦書（共通）」は WEB 申請システムからダウンロードしてください。なお、この要項の末尾に記入例がありますので、参照してください。
 - ・過去の申請書式での申請は出来ません。7 月以降 WEB 申請システムからダウンロードした最新版書式で申請して下さい。
 - ・申請書のみで事業内容等を説明できるものとして作成して下さい。例えば「詳しくは www://xxxxxx をご覧ください」といった外部リンクの表示で説明を代用することは出来ません。（参考としてホームページ等の URL を記載することは歓迎します）
- ①まず、「芸術活動助成申請書（ワードファイル）」をダウンロードして必要事項を記入してください。記入する項目は多岐にわたります。ワードの書式を壊さないよう注意しながら、写真画像を挿入するなど事業内容が明確にわかるように工夫してください。必要事項記載漏れや書式・フォーマットが壊れたものは申請書類不備として申請書を受理しない場合があります。記入・作成終了後、ファイルをご自身のパソコンにいったん保存し、そのワードファイルをアップロードしてください。アップロードが終わると「提出状況」欄が「提出済み」に変わります。
- ※申請書の記入項目のなかで、主な出演者欄は必要に応じて追加・削除して下さい。また、記入欄の空白スペースが大きくなりすぎないようにご注意いただき、申請書のページ数を 4 ページ以内に収めるようにしてください。
- ②次に推薦書（ワードファイル）をダウンロードしてください。このワードファイル（紙・またはデータ）を推薦者に渡して必要事項を記入・押印いただき、スキャナで PDF 化したものをアップロードしてください。また、原本は大切に保管してください。なお、推薦書はできるだけ A4 判 1 枚に収まるように記入を依頼してください。
- ※4 ページの「4 推薦書・推薦者について」をよくお読みください
- ③申請書の内容を補足する資料等がありましたら、PDF データ化して「参考資料」としてアップロードしてください。
- ※4 ページの「5 参考資料について」をお読みください。
- ④任意団体として申請される団体は、「定款（規約）」「役員名簿」「直近事業年度の事業報告及び決算書」（いずれも PDF ファイル）を「任意団体資料の提出」欄にアップロードしてください。
- ⑤上記書類のアップロードが終わりましたら、WEB 上の「申請情報」の各記入欄に必要事項を入力して下さい。なお、「過去の申請実績」「過去の助成実績」欄は、助成対象年度（事業の実施年度）でチェックをしてください。
- ⑥最後に、最下段にある「個人情報保護規則」をお読みいただき、同意欄に☑の上、

「上記に同意の上、確認画面に進む」をクリックし、確認作業を行ってください。

申請書、推薦書、参考資料などのアップロードしたファイルは、「提出ファイル」の右側に表示されるファイル名をクリックすると確認できます。必ずご確認ください。

4
推薦
書・

推薦者について

- 1) 申請には推薦書が必要です。推薦書がないもの、あるいは推薦書が虚偽・偽造とみなされるものは、選考対象とはなりません。
- 2) 申請する活動・事業が助成対象としてふさわしい芸術活動であることを、事業の内容や意義、芸術活動の質の高さを熟知し、熱意をもって推薦する第三者に 依頼してください。(第三者とは、その事業や申請者と利害関係のない人です)
- 3) 推薦書はワードの書式を印刷し必要事項を記入の上、推薦者本人の押印(外国人の場合には直筆のサイン)をいただいた上、スキャナで A4 判縦の PDF ファイルにして、アップロードしてください。押印やサインがないものは申請書類不備となります。
- 4) 推薦書は、必ず WEB 申請システムや当財団のホームページからダウンロードした所定の書式で作成してください。異なる書式の推薦書をアップロードした場合、申請書類不備となります。
- 5) 外国語で記載された推薦書の場合には、必ず日本語の翻訳文をご用意いただき、WEB 申請システムの「参考資料」欄にアップロードしてください。
- 6) 締め切り日に間に合うよう、推薦の依頼は余裕をもって行ってください。
- 7) 芸術祭等への「招請状」は、推薦書の代用とはなりません。必ず、推薦書を別途ご用意ください。

5 参考資料

- 1) WEB 申請では、申請書の内容を補足する参考資料を A4 判(縦)の PDF ファイル(8 ページ以内) でアップロードしていただくことも可能です。(必須ではありません)
- 2) WEB 申請システムでアップロードできない音声(CD)や映像(DVD)、書籍・図録などの資料を提出される方は、歓迎しますので事務局宛郵送でお送りください。但し、いただいた資料は返却できませんので、ご注意願います。

WEB申請に関するご注意

「WEB 申請作業中に締切時間を過ぎてしまい申請が完了しなかったが、申請を受け付けてくれないか?」「作業中にタイムアウトして申請が間に合わなかったのでメール(や FAX)で書類を送りたい」「パソコンがフリーズして申請に間に合わなかった」毎年こういった問い合わせの電話やメールが届きます。公平性を期すため、全てお断りしています。申請期間は 7 月 1 日～11 月 26 日まで約 5 か月間ありますので、十分に準備をして申請を行って下さい。また、パソコンのフリーズやネット障害など、予期せぬトラブルはつきものです。申請締切日に慌てることのないよう、余裕をもって申請作業を行い、申請書の記入漏れ、必要書類のアップロードミス、WEB 入力事項の入力漏れなどのないよう、くれぐれもご注意ください。

6 選考と結果通知

2021 年 2 月に開催する当財団の芸術活動助成選考委員会で決定し、同月末をメドに申請者にメールで連絡します

<芸術活動助成選考委員>

酒井忠康（世田谷美術館館長）
建島 哲（多摩美術大学学長）
沼尻竜典（びわ湖ホール芸術監督）
白石美雪（武蔵野美術大学教授）
大西若人（朝日新聞編集委員）
丸山玄則（朝日新聞東京本社文化くらし報道部文化担当部長）

7 助成決定後の手続き

1) 助成金交付決定をメールにて通知

選考委員会を経て助成が決まりますと助成金額、助成番号などをメールでお知らせします。

2) 「助成金受入通知書」と「助成金振込依頼書」のメール返送

「助成金受入通知書」「助成金振込依頼書」を決定通知時に添付しますので、必要事項を記入・押印してスキャナでPDF化し、メールで添付ファイルとしてお送りください。

3) チラシ・パンフレットなどのご送付

助成事業のチラシやパンフレット、ポスター、図録、プログラムなどには、当財団が助成したことを明示していただく必要があり、「助成 公益財団法人朝日新聞文化財団」と明記してください。（ロゴはございません。）

なお、助成決定通知送付時点で印刷済みのものには記載がなくとも結構ですが、決定通知後に作成・印刷するものには必ず明記してください。また、ホームページやフェイスブック、ブログなども同様です。

これらは当財団事務局宛、郵送ください。

4) 助成金の振込み

助成金は対象事業実施前月の最終週に申請者名義の口座に送金します。指定の口座への入金処理完了後、送金処理の完了をメールでお伝えします。この際「領収書」のひな型を添付します。

5) 領収書のメール返送と保管

助成金の入金確認が済みましたら、4

)のメールに添付する「領収書」のひな型に必要事項をご記入・捺印の上、PDF化し、速やかに当財団事務局にメール返送してください。なお、原本となる領収書はご自身で保管をお願いします。

6) 事業報告書の提出

事業終了後1か月以内をめどに「事業報告書」をWEB申請システム上で提出していただきます。WEB申請システムでは、①ワードファイルに必要事項を記載してアップロードしていただく方法、②WEB上の入力フォームへの入力と画像等のアップロードによる報告書作成、のいずれかの方法で提出できます。事業報告書は住所、電話番号、メールアドレスを除き、公開することを原則とします。

7) 事業報告書の確認

事業報告書の内容（結果）が申請書の事業計画と著しく異なったり、申請書に記載のない事業のための費用などが含まれている場合、助成金の返還や一部返還を求めることがあります。変更のある場合には、必ず事前に「助成事業計画変更届」を提出して下さい。

VII 東日本大震災・熊本地震等の被災地支援

- 1) 被災地域在住者からの申請、被災地の支援を目的とした事業について
特別に枠は設けていませんが、要件を満たしている申請はできるだけ優先的に扱います。
- 2) 支援内容の明確化
「被災地支援」「チャリティ」などを名目とした事業は、具体的にどんな支援をどのように行うのか、WEB申請画面及び申請書の「その他」の欄に必ず明記してください。

VIII 計画の変更や中止について

- 1 申請受付締め切り後の事業計画の変更・中止
申請受付締め切り後に、申請した事業の内容を変更・中止する場合は、速やかに当財団事務所にご連絡ください。
- 2 助成決定後の事業計画の変更・中止
助成決定通知後に計画を変更・中止する場合は、速やかにご一報のうえ、「助成事業変更届」「助成事業中止・助成金辞退届」を郵送で提出してください。なお、中止や変更の程度が著しい場合には助成金をお支払できない場合もありますので、ご注意願います。
- 3 「助成事業変更届」「中止・辞退届」は [WEB申請のページ](#) からダウンロードできます。

IX 「助成の公表」について

- 1 事業の実施に際して、その事業が当財団から助成を受けていること（記載例「助成：公益財団法人朝日新聞文化財団」「この〇〇は公益財団法人朝日新聞文化財団からの助成を受けています」などの表示を行うこと）を、以下の方法により申請者の責任において実行していただく必要があります。
 - ・チラシ、ポスター、パンフレット、カタログ、プログラムなどの印刷物への記載
 - ・会場内での掲示
 - ・展示作品の近傍に掲示
 - ・申請者や主催者の公式ホームページ、公式フェイスブックなどWEBサイトへの掲載※美術展での招聘展示等の場合、必ず作品近傍に掲示・表示して下さい。
- 2 印刷物は当財団事務局宛にお送りください。会場等での掲示・表示の際はその写真（画像）やデータをお送りいただくか、事業報告書に表示してください。WEBサイトへ掲載した場合には、その出力コピーをお送りください。

XX その他

- 1 当財団の業務遂行上、申請者名、事業名等を公表させていただきます。
- 2 当財団の公式フェイスブックやパンフレットで助成対象事業をご紹介します。公演情報やチラシ、写真素材等を josei@asahizaidan.or.jp にお寄せいただくか、公式フェイスブックの「ビジター投稿」に情報等をアップロードしてください。

以上

公益財団法人 朝日新聞文化財団
〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治生命館6階
電話 03-6269-9441 FAX 03-6269-9442 josei@asahizaidan.or.jp

全部で4ページ以内に収まるように作成して下さい

芸術活動助成申請書記入例（団体の場合）

公益財団法人朝日新聞文化財団

芸術活動助成申請書(美術)

20XX年10月1日

申請者名・申請団体名		公益財団法人朝日芸術財団		法人格名を含む正式な名称をご記入下さい。任意団体として登録・申請できるのは、定款・規約があり資金負担や実行責任分担が明確な実態のある団体に限りです。それらに該当しない個展・個人リサイタルやグループは代表者様個人として申請して下さい。(例: 「〇〇展」実行委員会→団体として実態が伴っていないものは代表者個人名で登録を)	
代表者名(団体の場合のみ)		理事長 朝日太郎			
申請者住所		〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1			
TEL	03-6269-9441	FAX	03-6269-9442	E-mail	
事業名	朝日新進気鋭芸術家展 2016		名称未確定の場合は「〇〇〇(仮称)」として下さい		
会場名	有楽町朝日ギャラリー		会場が確定していない場合には(予定)として想定会場名を記載して下さい。但し、実際の会場が規模等を含め著しく異なる場合には、助成取消となる場合もあります。		
会場所在地	東京都千代田区有楽町				
開催日(期間)	20XX年10月1日～15日				
事業総額(単位:円)	6,000,000円		助成申請額(単位:円)	700,000円	

<入場者・来場者・展覧者の見込み数(総数)と入場料>

9,000 人	入場 無料 ○ 有料	円～ 円
---------	------------	------

<事業の主催者が申請者ではない場合の主催者情報と申請者との関係>

主催者名	申請者が他の団体から事業実施を受託している場合や、ホールや美術館等の指定管理者となっている場合、その旨を記載して下さい。主催者でない貸ホール事業者が、主催者である事業実施団体に代わって申請することはできません。
(同)住所	
申請者との関係	

<他の共催者・後援者・助成者・協賛社(予定含む)>

代表的な名称のみの記載で結構です

共催		後援	文部科学省
助成	文化庁、(公財)美術助成財団	協賛	朝日ウイスキー株式会社

<事業の収支見込み>

単位=円

支出科目	金額	収入科目	金額
会場費・設営費	3,200,000円	入場料	
制作費・製作費	0円	寄附金	
出演料・謝金	350,000円	協賛金	1,500,000円
旅費・交通費	220,000円	公的補助金	2,000,000円
図録等制作費	500,000円	他の民間助成金	300,000円
郵送・運搬費	700,000円	物品販売売上	300,000円
広告宣伝費	300,000円	広告料収入	
賞金	500,000円		
その他の費用	230,000円	★今回助成申請額	700,000円
支出合計	6,000,000円	自己負担金	1,200,000円
		収入合計	6,000,000円

科目名は書き換えないで、該当すると思われる科目名を選んで金額を下さい。ここに記載されていない重要科目や、合計額の20%以上を占める科目がある場合には空欄に追加して下さい。

芸術活動助成申請書記入例（団体の場合）

<申請者に関する事項> 氏名・名称 公益財団法人朝日芸術振興財団

団体種別・現職	公益財団法人	現在の貴団体のステイタスをご記入下さい。法人格を持たない場合は「任意団体」として下さい。
団体の目的・専門分野	芸術家への支援、文化財保護活動への助成、音楽祭の実施	
経歴	年月	履歴（主な学業・研修・芸術団体等所属歴・芸術活動歴・受賞歴など）
	1992年4月	文化庁所管財団法人として朝日新聞社が基本財産を出損し設立
	1993年4月	芸術活動助成事業を開始
	1998年4月	(財)大阪国際フェスティバル協会を吸収合併し、同事業を主催
	2011年4月	公益財団法人に認定される
	2011年4月	文化財保護助成事業を開始
	2012年4月	朝日新進気鋭芸術家展を開始
	2013年6月	2012大阪国際フェスティバルが◎◎功労賞を受賞

代表的な経歴や受賞歴などを記載して下さい。行数や枠の数は増やさないようにお願いします。

<主な出展者等に関する事項>① 氏名・名称 _____

現職	朝日芸術大学教授	専門分野	油彩、水彩
経歴	年月	履歴（主な学業・研修・芸術団体等所属歴・芸術活動歴・受賞歴など）	
	1984年3月	〇〇芸術大学大学院修士課程終了。同年〇〇〇新人展最優秀賞を受賞	
	1987年4月	パリに游学しXXX氏、YYYY氏らに師事。	
	1992年3月	〇〇芸術大学大学院博士課程終了。〇〇画廊（東京）で国内初の個展。	
	2000年10月	◎◎芸術院奨励賞を受賞	
	2010年6月	◎◎芸術院賞を受賞	

出展者や出演者の代表的な経歴・受賞歴を記載して下さい。行数は増やさないようにお願いします。

<主な出展者等に関する事項>② 氏名・名称 朝日二郎

現職	築地芸術工科大学教授	専門分野	映像
経歴	年月	履歴（主な学業・研修・芸術団体等所属歴・芸術活動歴・受賞歴など）	
	1984年3月	〇〇芸術大学大学院修士課程終了。同年〇〇〇新人展最優秀賞を受賞	
	1987年4月	パリに游学しXXX氏、YYYY氏らに師事。	
	1992年3月	〇〇芸術大学大学院博士課程終了。〇〇画廊（東京）で国内初の個展。	
	2000年10月	◎◎芸術院奨励賞を受賞	
	2010年6月	◎◎芸術院賞を受賞	

出展者や出演者の代表的な経歴・受賞歴を記載して下さい。行数は増やさないようにお願いします。

<主な出展者等に関する事項>③ 氏名・名称 _____

現職		専門分野	
経歴	年月	履歴（主な学業・研修・芸術団体等所属歴・芸術活動歴・受賞歴など）	
	年月		
	年月		
	年月		
	年月		

不要な欄・枠は削除して構いません。

芸術活動助成申請書記入例（団体の場合）

＜主な出展者等に関する事項＞④ 氏名・名称

現職		専門分野	
経歴	年月	履歴（主な学業・研修・芸術団体等所属歴・芸術活動歴・受賞歴など）	
年月			
年月		☆「主な出展者等・・・」を増やしたい場合にはこの枠をコピーして増やして構いません。但し、行数を少なくして全体が 4 ページに収まるようにしてください。そのほかの出演者・出展者等は、以下の「その他」欄で補足して下さい。 ☆「主な出展者等・・・」に記載すべき人数が少ない場合で、その他の説明量を増やしたい場合には、この「主な出演者等に関する事項」の不要な枠を削除して全体量を調整して下さい。	
年月			
年月			
年月			

＜申請する事業が社会に与える影響や波及効果＞

美大生に広く作品公募・展示の機会を広げ、創作・出品意欲を高めるとともに、オークションの同時開催により、出品者がプロとして自立する意識を高め、作品制作原資の調達にも寄与することが期待できる。展覧者には、オークション参加を通じて芸術活動を支援する意識が醸成されることが期待できる。

＜助成の公表方法＞

チラシ、ホームページ、図録集に「助成：公益財団法人朝日新聞文化財団」と記載します。また、プレスリリース時の配布資料にも明記します。

当財団による助成を受けたことを、どのような形で公表するのかを記載して下さい。現物をお送りいただくとともに、結果を事業報告書に記載していただきます。

＜その他、申請にあたって伝えたい事項、事業の内容に関する補足説明など＞

2012 年から実施して以来、以下の成果を上げている。

- ・オークション成立額：2012 年（200 万円）、2013 年（250 万円）、2014 年（320 万円）
- ・受賞者の受賞以降の受賞歴

2012 年度受賞者：

XXXX 氏（大賞）

2012 年□□記念△△奨励賞受賞、2014 年◎◎◎賞受賞

YYYY 氏（奨励賞）

2014 年△△賞受賞

2013 年度受賞者

ZZZZ 氏（大賞）

2013 年◇◇賞奨励賞受賞、2014 年△△△賞奨励賞受賞

WWWW 氏（奨励賞）

2014 年△△賞受賞

以 上

芸術活動助成申請書記入例（申請者が個人やグループの場合）

全部で4ページ以内
に収まるように
作成して下さい

財団法人朝日新聞文化財団

芸術活動助成申請書(音楽)

20XX年9月10日

申請者名・申請団体名		朝日太郎		個人の場合は個人名を、グループの場合にはその代表者個人として登録・ご記入下さい	
代表者名(団体の場合のみ)					
申請者住所		〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治生命館6階			
TEL	03-6269-9441	FAX	03-6269-9442	E-mail	jimukyoku@asahizaidan.or.jp
事業名	朝日太郎と仲間たちバイオリンリサイタル			名称未確定の場合は「〇〇〇(仮称)」として下さい	
会場名	浜離宮朝日ホール				
会場所在地	東京都中央区築地				
開催日(期間)	20XX年10月1日				
事業総額(単位:円)	2,000,000円		助成申請額(単位:円)	300,000円	

会場が確定していない場合には(予定)として想定会場名を記載して下さい。但し、実際の会場が規模等を含め著しく異なる場合には、助成取消となる場合もあります。

<入場者・来場者の見込み数(総数)と入場料>

550人	入場	無料	有料	○	2,000円～	4,000円
------	----	----	----	---	---------	--------

<事業の主催者が申請者ではない場合の主催者情報と申請者との関係>

主催者名	例えば、「〇〇ビエンナーレへの出展」「□□音楽祭への客演」などがこのケースに該当します。「関係」欄は「公募による出展」や「主催者からの招聘」などとして下さい		TEL	
(同)住所				
申請者との関係				

<他の共催者・後援者・助成者・協賛社(予定含む)>

代表的な名称のみの記載で結構です

共催		後援	
助成	文化庁、朝日ウイスキー財団	協賛	

<事業の収支見込み>

単位=円

支 出	金 額	収 入	金 額
会場費・設営費	450,000円	入 場 料	1,200,000円
制作費・製作費	300,000円	寄 附 金	
出演料・謝金	250,000円	協 賛 金	
旅費・交通費	200,000円	公 的 補 助 金	100,000円
プログラム等制作費	150,000円	他 の 民 間 助 成 金	200,000円
郵送・運搬費	150,000円	物 品 販 売 上	
広告宣伝費	300,000円	広 告 料 収 入	
	円		
その他の費用	200,000円	★今回助成申請額	300,000円
支出合計	2,000,000円	自 己 負 担 金	200,000円
		収 入 合 計	2,000,000円

科目名は書き換えないで、該当すると思われる科目名を選んで金額を下さい。ここに記載されていない重要科目や、合計額の20%以上を占める科目がある場合には空欄に追加して下さい。

芸術活動助成申請書記入例（申請者が個人やグループの場合）

<事業の企画意図> ※3行以内で簡潔に説明してください

〇〇新進芸術家賞を受賞した朝日太郎とその仲間たちによるリサイタル。今回は日本では演奏される機会の少ない「北欧のピアノ詩人」と呼ばれる〇〇〇〇のバイオリン作品に絞った楽曲構成とし、詩人による関連作品の朗読も加え、〇〇〇〇の新しい魅力を再発見したい。

<助成申請する事業・活動の内容>（曲目・主な出演者・スタッフ等）

【開催概要】

開催日：20XX年10月1日午後2時開演

会場：浜離宮朝日ホール（東京都中央区築地）

出演：朝日太郎（バイオリン）、XXXX（バイオリン）、YYYY（ヴィオラ）、ZZZZ（チェロ）、WWWW（ピアノ）

プログラム：

序章：〇〇〇〇（詩）の朗読（海野六郎）

第1部 〇〇〇〇初期バイオリンソナタの世界

作品xx番「〇〇〇〇」

作品yy番「△△△」

作品zz番「□□□□」

第2部 □△〇×の影響

弦楽四重奏第XX番

序曲「〇〇〇〇」より抜粋（編曲：朝日太郎）

第3部 〇〇〇〇の神髄

バイオリン協奏曲第X番より（編曲：朝日太郎）

【プログラムの内容と構成について】

今回のプログラムは詩の朗読を序章に加えた3部構成とし、第1部は比較的初期の〇〇〇〇のバイオリンソナタから3曲を厳選。第2部では〇〇〇〇に大きな影響を及ぼしたとされる□△〇×の、その痕跡が比較的よくわかる弦楽四重奏作品と、小品ながらその名声を確立するにいたった序曲「〇〇〇〇」からいくつかの重要な部分を抜粋、朝日太郎の弦楽四重奏に編曲した作品を演奏する。第3部では、晩年のバイオリン協奏曲第X番を朝日太郎の再構成と編曲で送る。

これらにより〇〇〇〇がいかにバイオリンを愛し、重視していたかを浮き彫りにするとともに、生誕〇〇年を控えて〇〇〇〇の新たな魅力の発掘となるコンサートとしたい。

また、各楽曲の解説中心とした無料プログラム（パンフレット）を会場で配布し、演奏前には朝日太郎のショートレクチャーコーナーを設け、聴衆の作品理解の助けになるようにする。

【広報について】

- ・各マスコミにプレスリリースを出すほか、主要な音楽大学にDMやポスターを送付してPRします。
- ・特設ホームページ：<http://www.asahitarou.com/top/>

これら赤字の注意書きは提出前に削除してください。

☆事業の全体像が分かるように、具体的な内容を記載して下さい。写真を入れてもよいです。
☆この枠内で収まるように記入し、補足説明は4ページ目に記入して下さい。

☆事業のホームページがあればURLを記載して下さい。但しリンクを記入することで説明を省略・代用することはできません。（悪い例：詳細は<http://www.xxxx.com>をご覧ください→×）

芸術活動助成申請書記入例（申請者が個人やグループの場合）

<申請者に関する事項> 氏名・名称 朝日太郎

団体種別・現職	バイオリニスト・〇〇芸術大学客員教授	
団体の目的・専門分野	バイオリンの演奏、演奏会の企画	
経歴	年月	履歴（主な学業・芸術活動歴・受賞歴／団体の設立・活動歴など）
	1992年3月	〇〇芸術大学大学院修士課程終了。同年〇〇〇音楽祭新人賞受賞
	1993年4月	文化庁派遣によりアメリカ〇〇音楽院に留学
	1996年4月	帰国後、〇〇芸術大学大学院博士課程入学
	1999年3月	同学終了。音楽学博士号を取得。〇〇ホール（東京）でリサイタル
	2005年10月	〇〇芸術祭最高賞を受賞
	2007年9月	〇〇フィルハーモニー管弦楽団（東京）に就任
	2010年4月	渡欧。ヨーロッパ縦断ツアーを10都市で開催

代表的な経歴や受賞歴などを記載して下さい。行数や枠の数は増やさないようお願いします。

<主な出演者等に関する事項>① 氏名・名称 山田太郎

現職	バイオリニスト	専門分野	バイオリン
経歴	年月	履歴（主な学業・芸術活動歴・受賞歴／団体の設立・活動歴など）	
	1984年3月	〇〇芸術大学大学院修士課程終了。同年〇〇〇新人賞受賞	
	1987年4月	ベルリン、ウィーンに私費留学し〇〇〇氏、MMM氏らに師事。	
	1992年3月	〇〇芸術大学大学院博士課程終了。〇〇ホール（東京）でリサイタル	
	2000年10月	◎◎芸術院奨励賞を受賞	
	2010年6月	◎◎芸術院賞を受賞	

出演者の代表的な経歴・受賞歴を記載して下さい。行数は増やさないようお願いします。

<主な出演者等に関する事項>② 氏名・名称 山田花子

現職	音楽家、〇〇音楽大学教授	専門分野	ヴィオラ、音楽史
経歴	年月	履歴（主な学業・芸術活動歴・受賞歴／団体の設立・活動歴など）	
	1984年3月	〇〇芸術大学大学院修士課程終了。同年〇〇〇新人賞受賞	
	1987年4月	ベルリン、ウィーンに私費留学し〇〇〇氏、MMM氏らに師事。	
	2000年10月	◎◎芸術院奨励賞を受賞	

<主な出演者等に関する事項>③ 氏名・名称 朝日二郎

現職	ピアニスト	専門分野	ピアノ
経歴	年月	履歴（主な学業・芸術活動歴・受賞歴／団体の設立・活動歴など）	
	1984年3月	〇〇芸術大学大学院修士課程終了。同年〇〇〇新人賞受賞	
	1987年4月	ベルリン、ウィーンに私費留学し〇〇〇氏、MMM氏らに師事。	
	2000年10月	◎◎芸術院奨励賞を受賞	

<主な出演者等に関する事項>④ 氏名・名称 朝日三郎

現職	東都交響楽団第一チェリスト	専門分野	チェロ
経歴	年月	履歴（主な学業・芸術活動歴・受賞歴／団体の設立・活動歴など）	
	1984年3月	〇〇芸術大学大学院修士課程終了。同年〇〇〇新人賞受賞	
	1987年4月	ベルリン、ウィーンに私費留学し〇〇〇氏、MMM氏らに師事。	
	1992年3月	〇〇芸術大学大学院博士課程終了。〇〇ホール（東京）でリサイタル	

芸術活動助成申請書記入例（申請者が個人やグループの場合）

<主な出演者等に関する事項>⑤ 氏名・名称 海野四郎 _____

現職	東都交響楽団コントラバス奏者	専門分野	コントラバス
経歴	年月	履歴（主な学業・芸術活動歴・受賞歴／団体の設立・活動歴など）	
1984年3月		〇〇芸術大学大学院修士課程終了。同年〇〇〇新人賞受賞	
1987年4月		ベルリン、ウィーンに私費留学し〇〇〇氏、MMM氏らに師事。	
1992年3月		〇〇芸術大学大学院博士課程終了。〇〇ホール（東京）でリサイタル	

<主な出演者等に関する事項>⑥ 氏名・名称 海野六郎 _____

現職	詩人	専門分野	語り
経歴	年月	履歴（主な学業・芸術活動歴・受賞歴／団体の設立・活動歴など）	
1989年3月		〇〇文学大学大学院修士課程終了。同年H氏賞受賞	
1995年4月		現代詩人賞受賞	
2013年4月		〇〇文学大学教授	

☆「主な出演者等・・・」を追加したいときは、この枠をコピーし、他の枠の行数を少なくするなどして4ページ以内に収まるように工夫してください。そのほかこの出演者・出展者等は、以下の「その他」欄で補足して下さい。

<申請する事業が社会に与える影響>

周知のとおり〇〇〇〇はピアノの詩人と呼ばれ、殊に日本ではピアノ作品のみが注目を集め、演奏される機会も圧倒的に多い。このコンサートを通じて〇〇〇〇の新たな魅力を発掘し、また、バイオリンの新しい魅力を発見した作曲家としての功績をクローズアップすることで、日本における〇〇〇〇のファンの拡大やその研究の進化を促進する起爆剤となることが期待でき

当財団による助成を受けたことを、どのような形で公表するのかを記載して下さい。現物をお送りいただくとともに、結果を事業報告書に記載していただきます。

<助成の公表方法>

チラシ、ホームページ、パンフレットに「助成：公益財団法人朝日新聞文化財団」と記載します。また、プレスリリース資料に同様に記載します。

<その他、申請にあたって伝えたい事項、事業の内容に関する補足説明など>

出演する演奏家は、上記のプロフィール以外に、国内各地で様々なコンサート活動の携わるとともに、今回の企画のようなレクチャー付コンサートを数多く開催して、クラシック音楽のファン層の拡大や教育的貢献を行っている集団です。

特に今回のコンサートでは比較的高度な音楽史的内容も扱うため、学生券の設定を行い、各音楽大学に委託して割引販売も行います。

以上